

コロナ禍も工夫で共助 清水自治会

清水自治会 会長 美山栄二さん
副会長 佐藤陽二さん

今年、自治会発足10周年を迎える清水自治会。高齢化率が約10%と町内でも若い世代の多い地区です。

コミュニティセンターが、地域住民の交流拠点となるよう「資源回収の常設化」「いきいきサロン」「ふれあい卓球教室」など、様々な取り組みを展開されています。

今回は、その仕掛人の美山さんと佐藤さんに、これまでの経緯やコロナ禍における今後の自治会運営について話を伺いました。



左から美山栄二会長、佐藤陽二副会長

地区資源回収の常設

ゴミセンを建設した当初、敷地内に無断駐車をされないよう、入口にチェーンをしました。せっかくの我々の施設なのに、有効活用しないのはもったいないと思い、「ゴミセンの軒下に資源回収場所を常設し、いつでも資源ごみを出せるようにしました。



地域住民の皆さんは、ルールを守ってくれますので、特に問題もなく資源ごみを回収することができます。

いきいきサロンでは

ゴミセンを地域住民が交流する場にしたかったので、サロンを開設しました。茶話会から始めてみましたが、私たちは施設を開け、場所を提供するだけ。参加者の皆さんが、折り紙をしたり、体操をしたり、自分

たちでやりたいことを好きなようにやって楽しく過ごしておられます。そのぐらいでないかと長続きしないと思います。

サロン参加者の川元澄子さんは、「コロナでどこにも行けなかった。感染症対策もしっかりされている近くのゴミセンで、皆さんとおしゃべりしたり、体を動かしたりできて、本当に楽しいし、ありがたいです」と笑顔で話してくれました。



町オリジナル体操をするサロン参加者

持続可能な運営を目指して

コロナの影響で、上半期は自治会の活動がほとんどできなかったが、ようやく老人クラブと子ども達が交流する「ふれあい卓球教室」を感染症対策をした上で、再開することができました。

今後の自治会運営では、コロナ禍でも工夫し、対策を徹底したイベントの開催、そして、持続可能な自治会運営のために「若者」を巻き込みたいと考えています。町内では、青年部を設立した地区もあるそうなので、そうした地区を参考に、子どもから高齢者まで地域住民がふれあい助け合うことができる地域としていきたいと考えています。



ふれあい卓球教室の様子